



今井小だより

横浜市立今井小学校

令和 5年4月7日

学校だより 4月号

学校教育目標 : か が や い て い る 子 「自分大好き!今井大好き!」

はじめの一步

学校長 松永 史郎

早めの春の訪れにより、校庭の景色はすでに桜の花から爽やかな新緑へと変わり始めています。そのような中、いよいよ待ちに待った新しい年度を迎えることとなりました。

今井小学校の新しい仲間となる1年生のみなさん、ご入学おめでとうございます。また、新たな学年としてのスタートを迎えた2年生から6年生のみなさん、ご進級おめでとうございます。

みなさまにお知らせしてありますように、令和5年度は、これまで3年間にわたり、子どもたちの学校生活に大きな制限を与えてきた新型コロナウイルス感染拡大対策の大幅緩和と共にスタートいたします。特に、換気などの基本的な対策を行いながらにはなりますが、原則として子どもたちも教職員もマスクを外しての教育活動が可能になることを本当にうれしく思っています。

人と人のコミュニケーションは言語による部分が大きいとは言え、互いの表情を見合うことで多くのことを感じ取っていることも確かでしょう。特に、発達段階にある子どもたちが、相手の気持ちを考えたり互いを思いやる気持ちをもったりできるようにするために、相手の表情を見て感じ取る経験が大切なのは言うまでもありません。3年間にわたりマスク着用による安全安心と引き換えに、失われてしまっていた経験を、無理のない形で少しずつ取り戻していきたいと思えます。

また、今年度は感染対策によりこれまで活動に制限があった学校行事についても、少しずつコロナ禍以前のやり方に戻していけるのではないかと期待しています。詳しくは今後発出される予定の5月以後の教育活動についての通知を待つことにはなりますが、昨年度までよりはダイナミックな形で行事を実施できるようになるのは間違いないでしょう。

学校行事の充実と子どもたちの学力とは一見無関係のように思われるかもしれませんが、学校行事の質を高め子どもたちが主体的に取り組めるようにすることが、子どもたちの学習意欲、延いては学力の向上にもつながる…ということの検証が現在すすめられているそうです。

一方で、今井小学校は、今年度の1年生が29名、学校全体でも1年から6年生の一般学級10、個別支援学級2、合計12学級、全校児童数255名の小規模校です。児童数の減少は今後もしばらく続いていく見込みで、児童数、学級数が減れば、教職員の数も減っていくことになります。

学校としての喫緊の課題のひとつに、この小規模化に対応できる学校づくりがあげられます。小規模の学校にはそのメリットを生かした教育活動、学校行事等の在り方があるはずで、教職員一同で知恵を絞りながら、保護者の皆様や地域の皆様のお力をお借りしたり、子どもたちのアイデアも生かしたりしながら教育活動の改善を進めていきたいと考えております。

学校は、本日から新しい「はじめの一步」を踏み出します。令和5年度も今井小学校の教育活動へのご理解、ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。